

## 別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 東京製鐵株式会社		住 所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目7番1号 霞が関東急ビル15階
本票作成	部署名 : 管理部 安全環境防災課			
主たる業種	分類コード	22	業種名 : 鉄鋼業	
事業の概要	各種鉄鋼製品(形鋼・異形棒鋼・ホットコイル・酸洗コイル・溶融亜鉛メッキコイル・カットシート等)の製造及び販売。			
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所 在 地
	①	岡山工場		岡山県倉敷市南畠4丁目1番1号
特定事業者の該当要件	<input type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500㎘以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数) 1 所      ●車両台数 (②該当の場合) 台			

温室効果ガス排出量	基準年度(令和5年度)	(令和6)年度排出量	目標年度(令和6年度)
	365,645 t CO <sub>2</sub>	366,669 t CO <sub>2</sub>	393,272 t CO <sub>2</sub>
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(令和6)年度排出量
	①	岡山工場	366,669 t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>

削減目標の達成状況	計画期間 : 令和6年度 ~ 令和6年度 (1箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(6)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	2.7 %	28.3 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 生産数量	原単位当たり排出量		
		基準年度	(6)年度	目標年度
		464.261 kg CO <sub>2</sub> / (t)	451.555 kg CO <sub>2</sub> / (t)	333.058 kg CO <sub>2</sub> / (t)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(令和6年度)	達成率等
	電炉による普通鋼製造業	0.150 kJ/t 以下	0.196 kJ/t	76.5%

### 【削減状況の自己評価】

令和6年度(2024年度)の粗鋼生産量は、令和5年度(2023年度)の粗鋼生産量に対して1.03倍と増加したが、CO<sub>2</sub>排出量は1.00倍とほぼ横這いであり、原単位も99.54%と横這いとなった。尚、令和6年度(2024年度)の粗鋼生産量が目標に対して約31%と大きく減少した影響で、原単位は目標未達となった。又令和6年度(2024年度)に於いて実施したCO<sub>2</sub>排出量削減の為の主な取組は、①電力会社との間で上げデマンドレスポンス契約を締結し、再生可能エネルギー(太陽光発電)使用によるCO<sub>2</sub>排出量削減。②外灯のLED照明化継続、及び③製鋼電気炉アルミ灰使用量割合による電力原単位改善、並びに本年度(令和7年度)の取組も計画通り進行中であり、今後削減効果が期待出来ると確信している。

### 【推進体制】

環境マネジメントシステムであるJIS Q 14001:2004/ISO 14001:2004を2001年4月12日に取得し、登録証の交付を受けた。2023年(令和5年)11月22日～11月24日に更新審査を受審し、有効期限が2027年3月31日までの登録証を頂いた。ISOのサーベイランス審査を毎年受審しており、2024年度は、11月25日(月)～27日(水)の3日間で受審した。尚、環境委員会とカーボンニュートラル推進委員会を毎月1回開催し、2023年2月(2023年6月改訂)に発行した「統合報告書2022」で提示のアクションプラン(短期目標)の実行活動について、進捗状況の確認管理を行っている。更に、2021年6月24日付けてリニューアルした長期環境ビジョン「Tokyo Steel EcoVision 2050」(2050年のカーボンニュートラル実現)を達成する為に、今後も継続的に省エネ活動を行う。尚、2022年1月よりロゴマークを新たに制定し、「カーボンマイナス」と「アップサイクル」をモチーフとして、中央で掛け合わせることで大きな価値を發揮する活動を通じ、「脱炭素社会」「循環型社会」の実現に貢献して行くと言う当社の強い決意を込めている。

### 【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
岡山工場	<p>(令和6年度実施分)</p> <p>① 熱延10k・15k直接水系統ポンプモーターのINV化 ⇒ ▲1,778,000kwh/年(原油換算▲396kL/年)</p> <p>② 太陽光発電追加導入 ⇒ 協力会社棟屋上▲79,737kwh/年(原油換算▲7.4kL/年)、増築事務所屋上▲39,868kwh/年(原油換算▲3.7kL/年)=合計▲119,605kwh/年(原油換算▲11.1kL/年)</p> <p>③ 各所照明のLED ⇒ ▲371,424kwh/年(原油換算▲82.8kL/年)</p> <p>④ 製鋼工場DC電気炉直引集塵機トルクコンバーター撤去 ⇒ ▲88,875kwh/年(原油換算▲19.8kL/年)</p> <p>(今後実施予定分)</p> <p>&lt;令和7年度計画分&gt;</p> <p>① 電気炉間送水ポンプを高効率ポンプに更新 ⇒ ▲1,722,370kwh/年(原油換算▲383.9kL/年)</p> <p>② 热延ヒューム排気ファンINV化 ⇒ ▲83,776kwh/年(原油換算▲18.7kL/年)</p> <p>③ DC工場排ガス分析装置(AMI社)の導入による電力投入の最適化 ⇒ ▲2,444,280kWh/年(原油換算▲544.9kL/年)</p> <p>④ 各所照明継続LED化 ⇒ ▲175,200kWh/年(原油換算▲39.1kL/年)</p> <p>⑤ 製鋼工場DC電気炉建屋集塵機トルクコンバーター撤去 ⇒ ▲244,240kwh/年(原油換算▲54.4kL/年)</p> <p>&lt;令和8年度計画分&gt;</p> <p>⑥ コンプレッサー3台更新(クリュー式を適正容量のターボ式に変更) ⇒ ▲215,228kWh/年(原油換算▲48.0kL/年)</p> <p>⑦ 各所照明継続LED化 ⇒ ▲175,200kWh/年(原油換算▲39.1kL/年)</p>

### 【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無
その他	無

### 【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	有	太陽光発電システムを既に導入しているが、更に増設を計画している。
その他	無	

### 【その他特記事項】

東京製鐵(株)のホームページに、当社が鉄スクラップを主原料に環境にやさしい鉄鋼製品を生み出し続ける会社であり、電気炉製鋼法に再生可能エネルギーを活用する事で、製造時のCO<sub>2</sub>排出量をほぼゼロまで削減した「ほぼゼロ」ブランドについて、並びに長期環境ビジョンである「Tokyo Steel EcoVision 2050」についての詳細内容を記載している。この中で、脱炭素社会・循環型社会実現に向けてのCO<sub>2</sub>排出量削減目標と2016年度以降の実施成果について、毎年発行している「統合報告書・環境報告書」で詳しく報告しているので、ご確認をお願いしたい。